

利用者名：医療保健学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授 澤田 辰徳



Title:	Exploring occupational therapists’ perspectives on the clinical utility of the Assessment of Client’s Enablement (ACE): A qualitative study
論文名（和訳）	Assessment of Client’s Enablement（ACE）の臨床的有用性に関する作業療法士の認識—質的研究—
Authors:	澤田辰徳(東京工科大学 教授)、佐藤愛恵(IMS 板橋リハビリテーション病院)、松本実花子(IMS 板橋リハビリテーション病院)、大野勘太(東京工科大学 教授)、友利幸之介(東京工科大学 教授)
Journal:	British Journal of Occupational Therapy
掲載年月	2026 年 3 月（Scopus 掲載時期は 5 月以降）

研究概要：Assessment of Client’s Enablement（ACE）は、作業療法士とクライアントとの間に生じる作業遂行に対する認識の違いを可視化し、協働を促進するために開発された評価法です。本研究では、ACE を実際に使用した経験を有する作業療法士 7 名を対象に半構造化面接を実施し、質的分析法である SCAT を用いて臨床的有用性を検討しました。その結果、ACE は作業療法士とクライアントの相互理解を促進し、対話を活性化させることで協働的な作業療法実践を支援する可能性が示されました。

研究背景：近年の作業療法では、クライアント中心実践が重視されており、作業療法士とクライアントとの協働が不可欠とされています。しかし、両者の間には作業遂行能力や生活状況に対する認識の違いが生じることがあり、それが目標共有や治療方針の合意形成を妨げる要因となることがあります。ACE は、この認識の差（ギャップ）を可視化することで対話を促進し、より良い協働関係の構築を目指して開発されました。しかし、その臨床的有用性については十分に検証されていませんでした。

研究成果：分析の結果、「ACE の臨床的特徴と活用」「クライアントと作業療法士の変化」「協働」という 3 つのテーマが抽出されました。ACE は、両者の認識の違いを視覚的に示すことで、これまで表出されなかったクライアントの思いや価値観を引き出し、対話を促進していました。また、作業療法士自身もクライアント理解を深めるとともに、自らの面接や評価方法を振り返る契機となっていました。さらに、目標共有や信頼関係の構築、積極的な参加を促進するなど、協働を支える要素が確認されました。一方で、信頼関係が十分に構築されていない段階で使用した場合には、逆に不信感を生じる可能性も示されました。

社会への影響：医療や介護の現場では、利用者自身の意思や価値観を尊重した支援が求められています。本研究は、ACE が利用者と専門職の相互理解を深め、利用者主体の意思決定や目標設定を支援する有効なツールとなり得ることを示しました。これにより、クライアント中心のリハビリテーション実践の質向上や、より満足度の高いサービス提供への貢献が期待されます。

専門用語：

ACE（Assessment of Client’s Enablement）：作業療法士とクライアントがそれぞれ作業遂行状況を評価し、その認識の差を可視化することで協働を促進する評価法。

協働（Collaboration）：作業療法士とクライアントが共通の目標に向けて情報や意思決定を共有し、相互に尊重しながら関わる過程。

SCAT（Steps for Coding and Theorization）：少人数の質的データ分析に適した質的研究手法であり、逐語録から概念や理論を体系的に導き出す分析方法。